

どうしようもなく悲しい時に。

SCUDELIA ELECTROの3rdアルバム。メロディが綺麗で優しく、ほんのりと感動を与えてくれます。是非大人になったら聞いて欲しいポップです。大学2年生の頃、誰にも悩みを話せず無理に明るく振る舞っていた私を掬い上げてくれたアルバムでした。ポップでサッドな……そんな矛盾したようなアルバムだと思います。その1曲ずつが励ますでもなく、勇気付けてくれているわけでもないのですが、何故だか最後まで聞くと、アルバムが私にとってそうであったように、私も誰かに優しくなれるような気がするのです。

Wine Chicken & Music×CD

SCUDELIA ELECTRO作
ポリスター 1998年
中村 洋平 (19生)



どっちに行ったら幸せになれる？

ホテルビーナスはワケアリの流れ者達が辿り着く、どこかの街にあるホテルの名前。そこには幸せを待ちながら暮らす人々がいる。そんなホテルビーナスにある日、変わった父娘がやってくる。自分のことで一生懸命だから、見えないことがある。少しだけでもお互いのことを思えば、みんな幸せになれるかもしれないのに。

草なぎ剛主演の全編韓国語映画です。キャストが揃って好演していて、役者の力で魅せられる映画だと思います。画面は彩度を落としたグレースケールのような映像で、それがまた無国籍風のお話ともよくあっていて、とても美しい作品です。

ホテル ビーナス ×MOVIE

タカハタ秀太 監督
ビクターエンターテイメント
2004年 (日) 125分
中村 洋平 (19生)



編集員の好きなものを好きなようにレビューする新企画！

心配なことがあれば、 この曲を聴いてみてください

季節は春。新年度を前にし、漠然と不安を感じることもあるのではないのでしょうか？ そんなときに聴いてもらいたいのがこの曲です。

『大丈夫だよ 心配ないよ』『大丈夫だよ なんとかかなるよ』『大丈夫だよ 無理はしないで』と繰り返し呼びかけてくれるこの曲を聴くと、元気が湧いてくると思います。ぜひ手元に1枚どうぞ。

また、この曲は彼女の17枚目のシングルですが、2枚目の「12個の季節～4度目の春～」もおすすめてです。自身の高校卒業と同時にリリースされたこの曲。高校3年間に過ぎていく「12個の季節」と、卒業する「4度目の春」を色鮮やかに描いています。

大丈夫だよ×CD

川嶋あい作
Tsubasa Records
2009年

山谷 義貴 (20生)



大学生の恒夫と足の不自由な少女ジョゼの恋

深夜にテレビでやっていたのを観たのですが、役者の演技も透明感のある映像もストーリーも素晴らしく、あっという間に観てしまいました。大学生の恒夫（妻夫木聡）は、ふとしたことから足の不自由な少女、ジョゼ（池脇千鶴）と交流をもつ。サッパリした性格でモテる恒夫は、同じ大学の香苗（上野樹里）の好意を知りつつ、不思議な性格のジョゼに惹かれていく。サガンの小説から取った名前を自分につけ、頑なで子供っぽいジョゼですが、だんだん恒夫に心を開いていく様子がいいです。

ジョゼと虎と魚たち ×MOVIE

犬童一心監督
アスミック
2003年 (日) 116分
久住 忠彦 (21生)



山岳救助ボランティア三步の心温まる物語！

北アルプスを舞台にした、山岳救助ボランティアの三步のお話です。しばしば悲惨な事故現場や人が助からないこともあります。それでも読んでいるうちに思わず山に行きたい！って思えてくるのがこの作品の魅力。作者が登山が趣味というだけあって、山の絵がとてきれいです。主人公の三步は不思議な人で、事故や遭難に立ち会うこともしばしばあるのに北アルプスに住み、登ることをやめない。彼はなぜ山に登るのか？救難救助、生と死、重いテーマを扱っているのになぜか爽やかな印象なのは山の美しさと陽気な性格の三步のおかげでしょう。

「岳」を読んで山に行こう！

岳×COMIC

石塚真一著

小学館 ビックコミックス

吉田 聡 (20生)



心に染み込む写真と言葉の数々

若くして亡くなられた写真家、星野道夫氏の死後に作られた短い言葉と写真からなるこの本。ページをめくるたびに現れる味わい深い言葉と写真に、思わず体がぶるっと震えるような感覚を覚えます。アラスカに単身渡り自然と人々の暮らしを見続けてきた彼がその中で何を感じ、考えたのか。人間とは。生き物とは。自然とは。日本社会とアラスカという2つの場所で生きたからこそ紡ぎだせる言葉の数々が胸に染み渡ります。生き方に迷った時、心が疲れた時に読みたくなる本です。

最後の楽園

×BOOK

星野道夫著

PHP研究所

吉田 聡 (20生)



REVIEW × REVIEW

「僕の記憶は80分しか持たない。」

交通事故で記憶が80分しか持たなくなった博士とその家に家政婦としてやってきた「私」、その息子「√」のお話です。80分経つと全て忘れてしまうために毎朝「私」が博士の家を訪ねると自己紹介からはじめなくてははいけません。子供が好きな博士が「√」をとて大切に思い可愛がっている様子はとても胸が暖かくなります。けれど、楽しかったことも大切なことも全て忘れてしまう博士の気持ちを考えると少し切なくなります。忘れてしまうからこそ、かけがえのない「今」を何よりも大切に作る3人。考えさせられる1冊です。また、博士の口から語られる数学の話はとても面白く、こんな先生に出会っていたら数学が好きになっていたかもしれないと思いました(笑)。

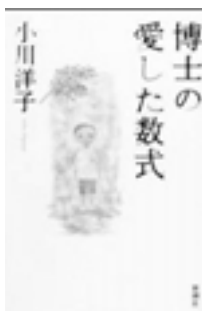
博士の愛した数式

×BOOK

小川洋子著

新潮社

吉田 聡 (20生)



1人の歌手がつづる究極の親子愛！

私はこの本で泣きました

『私は、生まれたときの名前は川島愛ではなかった。』
「あいのり」の主題歌『My Love』や映画「ONE PIECE」の主題歌『compass』などで知られているシンガーソングライター、川嶋あい。彼女は3歳で実母を亡くし、施設で育てられたのち川島家に引き取られました。しかし、10歳で養父を、16歳で養母を亡くします。その2ヶ月後、I WiSHのボーカルとして『明日への扉』でオリコン1位に輝きました。ただ、養母との約束だった「歌手デビュー」を直接報告することは叶いませんでした。

自身が19歳の時に出版された、優しさと切なさに満ちたエッセイです。この本を読んで、親子とは何なのか考えてみませんか？

最後の言葉×BOOK

川嶋あい著

ゴマブックス

山谷 義貴 (20生)

